

# ミニ・ラグビーのレフリング

平成17年6月18日  
改訂 平成20年11月16日

麻生ラグビースクール

はじめに

こどもを対象としたミニ・ラグビーのレフリングは、ルール一辺倒ではなく、指導的な立場で行うとともに思いやりを持ってするのが理想的です。

例えば、ジャックル程度のノックオンは取らないとか、勢いのあったときのスローフォワードはとらないとか。(ただし両チームとも公平に)

また、こどもたちに声をかけてやる，“なんでもないよ”，“続けて”，“ナイスタックル” “離れて”，“離して”，“早く出して” など。

アドバンテージの声は出さなくてもよいと思います。(こどもたちが錯覚するので) モール，ラックの成立は声を出してやっていいでしょう。

反則を取るレフリングではなく反則をさせないレフリングに心がけるようにします。危険なプレーまたは危険な状態が予測される場合は直ちにプレーを止めます。

例えばハイタックル，パンチング，モールが崩れたときなど。

負傷者が出たときも直ちに試合を止め，状況を確認します。安全を第一に考えます。

ルールは神奈川県ローカルルールを適用しています。

この資料は高学年（5年・6年）を対象にしています。中学年（3年・4年）との違いは最後に記述します。低学年は対象にしません。

## 1. レフリーの服装

- ① 双方のチームに似た色のジャージを着用してはいけません。  
事前にチームは分かっているのですから。  
これはタッチジャッジも同じです。
- ② 帽子・手袋など余分な物はつけないで下さい。
- ③ 金属製の時計・バンドは禁止です。こどもを傷つける可能性があります。  
ストップウォッチ，減算計測のできるものがよいでしょう。  
また，アラームをセットしておくことをおすすめします。
- ④ ジャージまたはパンツにポケットのあるものを着用してください。  
スコアカードをいれます。
- ⑤ ストッキングは試合中にずり落ちることがありますから注意してください。
- ⑥ スパイクはポイントが合成樹脂製で固定式のものにします。

## 2. 試合前の準備

からだを慣らすことを兼ねながら，グラウンドを1周してみてください。

10メートルの位置，インゴールの幅などを確認します。また余分な線がないかどうか。  
ミニでは3メートル，10メートルの線が引かれていないのが普通です。

### 3. 試合前のトス

県大会の場合は、開始15分前（前の試合のハーフタイム）に行います。

両チームのキャプテン・タッチジャッジが集合します。

トスの前に両チームのキャプテンと握手しましょう。タッチジャッジとも。

競技委員とCS委員が立ち会います。注意事項を確認します。

タッチジャッジとよく打合せをしてください。3トル, 5トル。時間の確認・注意。

### 4. キックオフ・トライ後のキックオフ

キックオフ

① 前後半のキックオフでは最初に双方の人数を数えてください。

周囲の人が“数えているな”と見えるように指呼してください。

② 防御側に“いきますよ”と声を掛け、確認してから時計をセットし、笛を吹きキッカーに蹴ってよいの指示をします。

③ 攻撃側のポイントオーバーはやり直しにします。

トライ後のキックオフ

① トライした側がキックをします。

相手に攻撃権を与えるためです。レギュラーとは反対です。

② 防御側が完全にシフトするまでは蹴らせてはいけません。

ゴールキックのとき、トライした側はシフト態勢にはいれるのにされたほうはポスト直下におり位置につくのが遅れるからです。

レフリーはキッカーの邪魔になる位置に立ち、キッカーを制御します。

### 5. セットスクラム

① “クラウチ”, “タッチ”, “ポーズ”, “エンゲージ” の順番に声をかけスクラムを組ませます。“エンゲージ” にアクセントをもたせます。

バインディングをさせ、頭を内側にいれるようにします。

② ノットストレートはとりません。NO コンテストだからです。

相手側はフッキングをしてはいけません。した場合は注意をし、やり直しにします。

③ レフリーは攻撃側のブラインド側でスクラムのななめ後方に立ちます。

この位置は、ハーフのノックオン・リターンザボールの反則が見やすいのと防御側のオフサイドを制御しやすいのです。

手をあげる、声を掛けるなどで反則をさせないようにします。

スタンドオフがブラインド側に走ってくる、ブラインドウイングにボールが回るなどのケースがありますから注意します。

また、ゴール直前でのスクラムの場合、ハーフがボールを持って飛び込む場合がありますからその気配が見えたらインゴールに素早くまわるようにします。

- ④ BKのオフサイドラインはスクラムを組んでいる足の後ろから3メートルです。ハーフはスクラムの後方約1メートルの位置に立ち、スクラムに手をかけます。タッチジャッジが指示しているかを確認してください。
- ⑤ スクラムの解消はスクラムからボールが出たときです。ボールがハーフを越えて転がった場合、イーブンボールとなります。双方のいずれのプレーヤーもボールに働きかけてかまいません。
- ⑥ フッカーが相手側にボールを蹴り、相手側にボールが出た場合、そのまま続行します。

改訂 攻撃側も3メートル下がります。

## 6. ラインアウト

- ① 多くのグラウンドでは3メートルラインは引かれていません。レフリーはきちんと計測して並ばせます。また、双方のプレーヤーともラインオブタッチから50センチ以上離れるようにしてください。
- ② スローイングは双方の頭と頭のあいだ（外側）に投げさせます。曲がった場合、1回目はやり直しです。繰り返した場合、8メートルの地点で相手側のボールでスクラムにします。
- ③ BKのオフサイドラインはラインオブタッチから5メートルです。タッチジャッジはタッチのポイントを指示したあとは防御側の5メートルの位置に移動してオフサイドをしないよう指示します。
- ④ レフリーはタッチラインより中に入り、攻撃側に立ちます。防御側のオフサイドを見るようにします。手を挙げ、声を出してオフサイドに注意します。後方には立たないでください。（後方に位置することはプレーヤーの反則・バーニングなどをみる場合です。）ゴールライン直前の場合はゴール側に立ちます。
- ⑤ ラインアウトの解消  
モールまたはラックとなり、一方がラインオブタッチを越えたとき。  
ノックバックされたとき。  
ハーフにボールがわたったとき。  
8メートルを越えてボールが投げ入れられたとき。（ロングスロー）  
ボールを持ったプレーヤーまたはボールがタッチラインと3メートルラインの間に入ったとき。  
ピールオフをするプレーヤーにボールがわたったとき  
モールまたはラックとなりアンプレアブルとなったとき。

改訂 ラインアウトに並ぶ人数は高学年・中学年ともに2人です。

- ⑥ クイックスローインは認められます。

- ⑦ 3メートルオフサイドに気をつけてください。多くのグラウンドでは3メートルラインが引かれていません。(ノット 3メートル・フリーキック)

## 7. タックル

タックルは相手プレーヤーに捕らえられ、地面に倒された場合に成立します。

捕らえられていなければタックルされたプレーヤーとはなりません。

(よくタックルされて相手が手を離れたとき立ち上がって再度走り始めることがあるがこのケースです)

タックルポイントでは様々な反則が発生します。ポイントには素早くいき、近くで見ないようにしてください。

- ① タックルが成立したあと、タックラーは直ちに相手を離さなければなりません。

“離れて”と声を掛けます。ボールをコントロールできないように上からかぶさっているケースなどがあります。

離れなければ“ノットロールアウト”の反則です。(ペナルティ)

- ② ボールキャリアーは直ちにボールをパスするか、ボールを手放さなければいけません。“放して”と声をかけます。

放さなければ“ノットリリースザボール”の反則です。(ペナルティ)

ボールを1メートル以上転がした場合はイーブンボールとなり、双方のどのプレーヤーも自由に働きかけができます。

- ③ タックルされたプレーヤー、タックラーは直ちに立ち上がらなくてはいけません。いつまでも立ち上がらず、プレーの邪魔をしている場合は反則となります。(ニアザボール・ペナルティ)

また、立ち上がりながらのプレーもしてはいけません。(ペナルティ)

- ④ タックルが発生した地点に対し、ダイビングまたは倒れ込むプレーは反則です。(倒れ込み・ペナルティ)

- ⑤ タックルが発生した地点に対し、ボールを獲得しようとするプレーヤーは横からまたは斜め横から入ってはいけません。正後面から入らなければなりません。

ボールに対して約1メートルのゲートがあるものと考え、ゲートから入らなければなりません。(オフサイド・ペナルティ)

改訂 ジャックカルするときは頭が下がってはいけません。危険なプレーとなります。モール・ラックのなったときも頭が腰の線よりさがってはいけません。

## 8. モール

ボールを持っているプレーヤーが相手に捕らえられ、双方のプレーヤーが1人以上参加し、バインドしている状態がモールです。

従ってモールは3人以上で形成されます。プレーヤーは立っていなければなりません。

- ① モールが形成されたとき、レフリーは“モール”と声をかけるとともに“早く出して”とも声をかけます。

押している場合は少し様子をみます。

- ② ボールが明らかに出そうな場合を除いて、モールのパイルアップは3秒から5秒です。持ち込んだ側とは反対側のボールでスクラムとなります。

- ③ ボールが明らかに出そうもないと判断したときは時間に関係なく、直ちにパイルアップをさせます。レフリーはボールを見るためモールの周囲を回って状況を確認しなければなりません。

- ④ モールに参加しているプレーヤーはバインドしていなければなりません。

モールの横に立っているプレーヤーはオフサイドの位置にいます。

オフサイドの位置にいるからといって反則ではありません。

ただ、その位置から相手側に動けば“オフサイド”となります。

(この状況はレフリーが一番見逃しやすいプレーです)

モールのオフサイドラインはモールを形成している最後尾のプレーヤーの足の後ろです。

モールに対して参加しようとするプレーヤーはオフサイドの位置から参加しようとしてはいけません。(横から、斜め横から・オフサイド)

- ⑤ モールの解消は

ボールを持ったプレーヤーがモールから離れたとき。

ボールが地面に置かれたとき。(ラックになります)

ボールがパスされたとき。(最後尾のプレーヤーがボールを持ちハーフがそのボールに手をかけている状態はまだモールです)

- ⑥ レフリーの立つ位置はボールの出そうな側でモールの真横がよいでしょう。防御側のラインオフサイドを見るようにします。手で制御してもよいでしょう。

判断ができるようにモールの周辺を動かさなければなりません。

## 9. ラック

地上にあるボールを獲得しようとして双方1人以上のプレーヤーが密着している状態をいいます。このとき双方のプレーヤーは立っていなければなりません。従ってラックは2人以上で成立します。

- ① ラックはタックルポイントで発生することが多くなります。  
タックルドオフサイドを見たうえでラックになっているかを確認し“ラック”と声をかけます。  
プレーヤーが重なりあって倒れている状況であれば危険防止のため直ちにパイルアップをさせます。  
また、ボールが明らかに出不いと判断したときもパイルアップにします。  
ボールを持ち込んだ側のスクラムとします。  
(モールの場合と反対です)
- ② ラックのオフサイドラインはモールと同じく組みあっている最後尾のプレーヤーの足の後ろです。  
ラックサイドに立っているプレーヤーはオフサイドの位置にいます。  
この位置からは相手側に働きかけることはできません。  
ラックに参加しようとするプレーヤーはゲートから入らなければなりません。
- ③ ラック内のボールは手を使って処理しようとしてはいけません。  
“ハンド”の反則となります。ペナルティ
- ④ ラックの中または近接しているところに倒れているプレーヤーは直ちに立ち上がらなければいけません。(ニアザボール・ペナルティ)  
また、このプレーヤーを踏みつける行為は反則です。  
(スタンピング・ペナルティ)
- ⑤ ラックの解消はボールがラックから出たときです。  
最後尾のプレーヤーの足下にあるボールを他のプレーヤーが触ったときはボールが出たものとします。モールと違います。
- ⑥ レフリーの立つ位置はモールと同じです。

## 10. キック

キックはどの位置から行なってもかまいません。

- ① 10メートルラインの内側から蹴られたボールが直接タッチに出たとき、転がって出たときは出た地点で相手側ボールのラインアウトとなります。
- ② 10メートルを越えた地点で蹴られたボールが直接タッチに出た場合は、ダイレクトタッチとなり、蹴った地点に戻されて相手側ボールのスクラムとなります。  
(レギュラーはラインアウトですがボールが確実に入れた側のものとするためにはスクラムのほうが良いのです)

改訂 10メートルより前方のスクラムから出たボールが10メートル後方にいるプレーヤーが蹴った場合、直接出ればダイレクトタッチとなります。

- ③ ボールが蹴られたとき、前方にいる味方のプレーヤーはすべてオフサイドとなります。  
オフサイドの位置にいるプレーヤーはオンサイドになるまで一歩でも前に動いてはいけません。(キックオフサイド・ペナルティ)  
レフリーは落下地点に急ぐとともにこの状況を見ます。
- ④ オフサイドにいるプレーヤーは味方プレーヤーによるオンサイドになる場合の他、ボールをキャッチした相手側プレーヤーがパスをしたとき、キックをしたとき、ボールを持って5メートル以上走ったときにオンサイドとなります。
- ⑤ 蹴られたボールが前方の味方プレーヤーに当たった場合は、アクシデントオフサイドとなり、その地点で相手側ボールによるスクラムとなります。

## 11. その他

### A. 5メートルルール

ゴール前ではすべてのセットプレーは5メートルルールが適用されます。

スクラム，ラインアウト，ペナルティ。

攻撃側がゴール直前でペナルティを犯した場合，キックする側は早いリスタートをしてはいけません。

### B. コーナーフラッグ

コーナーフラッグにボールを持ったプレーヤーが触れればタッチです。

改訂 コーナーフラッグに触れながらタッチダウンをした場合はトライです。

### C. フライキック

無目的のキックです。密集で地上にあるボールを蹴り合う場合です。

相手側のスクラムになります。

キックオフでボールを取りそこね，足に当たった場合はフライキックとはしません。

### D. ホイッスル（笛）の吹き方（笛のメーカーはACME・アクメ）

軽度な反則とペナルティの場合とは明らかに異なる強弱をつけてください。

トライをしたときは，“よくやった”という思いをこめて吹いてください。

試合開始時に笛は，ピーーー ピッ と，終了時にはピッ ピーーー と。

### E. ゴールキック

キッカーの後ろに立ってください。日差しのあるときは影がボールの近辺にうつらないようにしてください。遠くでみるのは良くありません。

ゴールが成功したときには笛を吹きます。

### F. レフリーにボールが当たったとき

蹴った側のスクラムで再開します。

### G. ボールを持ったプレーヤーがレフリーに当たったとき

態勢に影響がなければ続行します。影響があれば攻撃側のスクラムにします。

H. レフリーの走るコース

セットスクラム、ラインアウトではボールのうしろからスタートします。早くボールと平行な位置まで追いついてください。常にボールと平行な位置にいます。スローフォワード、オブストラクションが見えます。ボールを持っているプレーヤーより前を走らないでください。ゴール直前では前に回り込むこともあります。

I. アドバンテージの解消

アドバンテージの解消は、軽度な反則の場合は5秒を進んだ地点で解消  
重度な反則の場合は10秒で解消と考えたら良いでしょう。  
(これはあくまでも私なりの目安です。)

アドバンテージを取っているあいだは、軽度な場合は手を横に、重度な場合は手を斜め上に挙げ続けます。

また解消した場合は“アドバンテージ解消”と声を出します。

J. ボデイサイン

反則があった場合、それがどのような反則であったかをボデイサインで現わします。プレーヤー及び周辺の人たちに判るようにします。

ボデイサインの表現のしかたはルールブックの後ろにあります。

K. 疑わしきはトライ

インゴールでトライかノックオンか微妙な場合があります。

明らかにノックオンと認められる場合を除いてはトライにします。

エンドラインを越えてしまった場合もトライにします。

L. タッチジャッジとの連携

コーナーでトライかタッチか判然としないときがあります。

タッチジャッジに確認をとるようにしてください。

レフリーの見えないところで危険なプレーなどが行われたとき、タッチジャッジがフラッグをあげます。直ちにプレーを止め相談してください。

時計の押し忘れがあったときなど時間が判らなくなったらタッチジャッジに残り時間を確認してください。

M. インゴールで

インゴールではモール・ラックは成立しません。

モール状態のままインゴールに入ったら早めにパイルアップをさせ、攻撃側ボールでスクラムにします。

また、トライかキャリーバックか判然としない場合も同様です。

レフリーはできるだけインゴール側に入って判定します。

N. ペナルティキック・フリーキック

ボールを地上に置いてチョン蹴りです。クイックスタートも構いません。

0. アーリータックル・レイトタックル・スコップ

アーリータックル（早すぎるタックル・ノーボールタックル）

**BK** ラインで起きます。見込みでタックルする場合は。ペナルティ

レイトタックル（プレー終了後のタックル）

パスをしたまたはキックしたプレーヤーに対し、プレー後に行なうタックルです。特にキックしたあとのタックルは非常に危険なプレーです。

レフリーはボールを目で追いながらもこのプレーを見逃さないでください。

スコップ

ボールをキャッチしようとするプレーヤーに対し、寸前に行われるタックルです。これも非常に危険なプレーであり、通常は一発退場です。

ミニの場合は当該チームと話し合い、交代させるのがよいでしょう。

## 1 2. 高学年（5／6年）と中学年（3／4年）とのルールの違い

### ① 人数

高学年は9人制，中学年は7人制です。

中学年にはウィングとフルバックがいません。

### ② 中学年のスクラム

スクラムではボールインをしません。

スクラムを組んでいるプレーヤーの足下にボールを置きます。

ハーフがボールをパスしたときがスクラムの解消です。

ハーフは必ずボールをパスアウトしなければなりません。

（いわゆるハーフのモグリはしてはいけません）

### ③ 中学年のラインアウト

ラインアウトに並ぶプレーヤーの数は2人です。

当資料は平成17年6月に作成されました。

改訂 平成18年6月

改訂 平成20年11月16日

今後，ルールの変更・神奈川県ローカルルールの変更などがありましたら修正版を作成する予定です。

当資料の監修については竹淵コーチに協力をいただきました。有り難うございました。

文責 コーチ 佐藤 満弘

